

令和元年度 学校評価

加古川市立別府中学校

学校教育目標 「一人一人を大切にし 共に生きる心と力を育てる」

めざす学校像 「みんなの瞳 輝く 学校」

～挨拶・協力・感謝の実践化を通して～

＜重点目標＞

- ①知・徳・体をバランスよく育て、「自ら生きる力」を育む
- ②基礎的基本的な学力の定着をはかり、主体的に学び、考え表現する力を育てる
- ③生徒の主体的な活動の活性化をはかり、「共に生きる心と力」を育む
- ④いのちを大切に、人権を尊重する教育を推進する
- ⑤一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う
- ⑥危機管理意識を高め、安全・安心な学校を創造する
- ⑦教職員としての指導力と資質向上に努め、よりよい組織形成をめざす
- ⑧地域から信頼される教育の環境づくりに取り組む

○評価基準

- 4: よい
- 3: ややよい
- 2: やや悪い
- 1: 悪い

評価指数とは (4×4の人数)+(3×3の人数)+(2×2の人数)+(1×1の人数)/合計人数

評価指数の平均値は2.5 平均3.5以上で○、2.5未満で△(そのうち2.0未満を▲)として表示

領域	質問項目 (学校の自己評価アンケート)	評価指数				質問項目 (保護者・生徒アンケート)	評価指数				改善の方策	関係者評価	
		R1	H30	H29	H28		R1	H30	H29	H28			
学校生活全般	1 生徒のあいさつ	○	3.5	3.2	3.5	2.7	生 地域や学校で進んであいさつができた。	○	3.5	3.4	3.4	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校や部活動時のあいさつはできていると感じるが、来客へのあいさつや地域でのあいさつでは、不十分である。継続指導を行う。 ・学校生活の充実について、生徒及び教職員自身の評価が高かった。この結果に甘んじることなく今後も周りの人への感謝の気持ちを大切にしつつ、充実感・満足度が高まるようさらに努力したい。
	2					保 自分から進んであいさつをしている。		3.1	3.1	3.1	3.0		
	3 生徒の協力性		3.3	3.3	3.1	2.8	生 係や班活動、行事などで級友と協力して取り組んだ	○	3.6	3.4	3.5	3.3	
	4						保 家庭の中で協力的		2.9	2.9	2.8	2.8	
	5 まわりへの感謝						生 周りの人に感謝している	○	3.6	3.5	3.4	3.4	
	6						生 学校生活は充実している	○	3.5	3.4	3.4	3.4	
	7 学校生活での充実度	○	3.6	3.4	3.4	3.2	保 学校生活を充実感・満足感をもっている		3.2	3.1	3.1	3.0	
	8						保 学校は子どもが学習するのに適した環境である。		3.1	3.0	2.9	2.7	
学習(学力向上)	9 学習規律	○	3.5	3.6	3.4	2.7	生 ベルスタはできた	○	3.5	3.3	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律を守りベルスタは定着し、全体として落ち着いて授業に取り組んでいる。準備物・宿題・提出物等の忘れ物に課題を感じている生徒がいる。 ・協同的探究学習の日常化を目指し、できる学力だけでなく、わかる学力、他者から認められることによる自己有用感の醸成に努めていく。 ・家庭学習に課題がある。朝学習の時間などで、「自学自習できる力や習慣を身につける」ことを目標に全校的に取り組む。 ・公開授業週間を活用して互いの授業力向上を図る。 ・平日のノー部活デーの放課後に、個別の学習会をするなど検討したい。
	10					生 準備物宿題提出物		2.9	2.9	2.8	2.8		
	11 基礎的な知識技能、学力の定着		2.8	2.7	2.7	2.5	生 授業はわかりやすかったか		3.0	2.9	3.0	2.8	
	12						保 授業内容を理解している		*	*	3.2	2.7	
	13 思考力・判断力・表現力		2.6	2.6	2.5	2.2							
	14 ことばの力		2.7	2.5	2.3	2.1							
	15 家庭学習		2.6	2.8	2.8	2.4	生 家庭での学習時間は、3時間以上～30分以下		2.5	2.5	2.4	2.4	
	16						保 家庭学習の習慣が身についている		2.6	2.6	2.6	2.5	
17 教師の授業力向上		2.8	2.6	2.6	2.6								
18 個に応じた教育的支援		2.8	2.7	2.7	2.6	保 学習の様子や努力を適切に評価している		3.1	3.0	2.9	2.9		
人権・道徳	19 生徒の道徳性を養う		3.0	2.7	2.8	2.5	生 思いやりの心を持ち、人を大切にしている	○	3.7	3.6	*	*	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は思いやりの心を持ち、人を大切にできていると感じている。今後一層、道徳性を養うため道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるため教育活動全体を通じて行う。 ・道徳教育については教科化になり、年間計画を見直すとともに、授業力向上や実践力向上に努めたい。 ・みかしお学級については、職員研修を通して共通理解をはかり、学級生の意欲的な取組を支援したい。
	20					保 思いやりの心を持ち、人を大切にしている		3.4	3.3	*	*		
	21 生徒の同和教育への知識理解度		2.5	2.5	2.4	2.3							
	22 人権・道徳の授業力		2.8	2.6	2.5	*							
	23 計画からの実施状況		3.0	2.6	2.7	2.6							
24 みかしお学級での活動		3.1	2.8	2.9	2.5								
特別活動	25 行事、生徒会活動		3.0	3.2	3.2	2.9	生 委員、係の活動に積極的に取り組んだ	○	3.5	3.3	3.3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動を外部から見ると充実しているが、生徒会担当者や生徒会役員の負担は大きい。
	26 部活動を通しての成長		3.1	3.1	3.2	3.0							
生徒指導	27 生徒の服装・頭髪の乱れ	○	3.6	3.4	3.2	2.4						<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制が整い、組織的に対応している。報告連絡相談などの連携体制の徹底を継続していきたい。 ・生徒指導・不登校・いじめ対策推進委員会を機能させ、早期発見、早期対応だけでなく予防・開発的生徒指導に努めたい。 ・細かいルールづくりや共通理解だけでなく、生徒の規範意識の涵養に努めたい。 	
	28 生徒の服装・頭髪以外の生活ルール		3.3	3.2	3.1	2.4	生 ルールを守って生活した	○	3.6	3.6	3.5		3.4
	29 生徒指導力の向上		2.8	2.6	2.6	*							
	30 教師間の共通理解や指導の方向性		3.2	2.9	3.1	2.6							
	31 学年間の連携		3.1	2.9	2.9	2.6							
家庭・地域との連携	32						保 現状や取り組みを、便りやホームページなどでわかりやすく伝えている。		3.1	3.1	3.1	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・土日のノー部活デーに、塾に行かせたり、生徒同士で遊ばせたりするのもよいが、もっと家族と過ごす時間も必要である。 ・学校教育だけでなく、家庭の教育力、地域の教育力で子どもを育てなければならない。 ・大人がやりすぎて、子どもが自ら考え、行動する機会を奪っていることがある。大人はもっと子どもの主体性を育むようにしていかなければならない。
	33						保 学校をよく知ってもらうために、参観できる機会を適切に設けている。		3.2	3.2	3.0	3.0	
	34 PTA、地域、ユニットなどの取り組み		3.3	3.1	3.2	2.9	保 学校行事にできるだけ参加している		3.3	3.3	3.2	3.2	
	35						保 子どものことについて、気軽に相談することができる。		3.0	2.8	2.7	2.7	
	36						保 地域や保護者の意見に丁寧に対応している		3.2	3.0	2.7	2.7	
学校運営	37 学校目標の明確さ		3.1	3.1	3.1	2.9						<ul style="list-style-type: none"> ・学校の組織的な対応や教員の危機管理意識をさらに高めるために主任会を設置し、週に1回開催し、報告連絡相談のしやすい体制づくりをした。 ・職員研修などを通して、常に高い意識を持ちながら、指導力や資質の向上に努めたい。 ・超過勤務時間の1割削減を目標にしているがなかなか達成できない。 	
	38 学校としての組織的な活動		3.1	2.9	3.0	2.8							
	39 勤務時間の適正化・業務改善		2.5	2.4	2.3	2.2							
	40 設備施設の改善		3.1	2.6	2.6	2.6							
	41 報告連絡相談などの連携体制		3.1	3.0	3.1	2.8							
	42 危機管理対応		2.9	2.8	2.9	2.6							
	43 研修の充実度		3.1	2.8	2.9	2.8							